

つづき

津付ダムだより

発行所

大船渡地方振興局土木部
津付ダム建設事務所

お問い合わせ先

〒029-2502

気仙郡住田町下有住

字中上 333

TEL 0192-48-3123

FAX 0192-48-3121

津付ダム公式ホームページ

[http://www.pref.](http://www.pref.iwate.jp/hp4580)

[iwate.jp/hp4580](http://www.pref.iwate.jp/hp4580)

付替国道工用道路

着々と進行中

昨年秋に着工した付替国道の工用道路は、冬の厳しい期間に工事が最盛期となりましたが、これまで事故も無く、順調に進んでいます。

現在は、篠倉川を横断する仮橋の工事を行っています。

(工用道路の様子)



(仮橋の工事の様子)



仮橋は、川の中での工事を不要とする構造にするなど、川の濁りや土砂の流出を発生させないように、細心の注意を払って工事を進めています。

今後も、専門家の助言や指導を頂きながら、周辺環境に配慮して事業を進めていきます。

遺跡発掘調査の続報

縄文時代は、約二万二千年前から、水田稲作の始まるまで(約二千三百年前)の時期で、草創期、早期、前期、中期、後期、晩期に分けられます。

昨年の発掘調査の際に出土した土器は、その後の調査で、縄文中期後半から晩期にかけて(約四千五百〜二千三百年前)のものだと判明しました。



(出土した縄文土器)

質問コーナー

(津付ダムや、気仙川の治水対策など、皆さまからの『よくある質問』を紹介します。)

(質問) 洪水のおそれがある場合に市町村長から出される『避難勧告』は、どのような基準で発令されるのでしょうか？

(回答) 避難勧告は、そのときの気象状況などに応じた判断が必要のため、明確な数値基準が無いことが一般的です。

このため、本紙第4号で紹介したとおり、気仙川では、『昭和橋』と『島部』の水位観測所に、避難勧告を出す目安となる『河川の水位』を定めています。

この水位は、住民の皆さまが余裕をもって避難できるように、避難準備や移動時間を考慮し、過去の洪水での河川水位上昇状況などをもとに定めているものです。

洪水時には、この水位を目安として避難勧告が出されますが、降雨の状況や被害の発生状況などに応じて、これより早い段階で勧告が出される場合などもありますので、十分な注意が必要です。

気仙川の防災対策マメ知識（第4回）

前回は、気仙川の洪水と対策について紹介しました。

今回は、水防（すいぼう）について紹介します。

水防って何？

ダイヤル『119』は、火事の発生や、救急車をよぶときの『消防署』への緊急用電話番号です。誰でも『消防』は知っていますが、『水防』はどうでしょうか？

わかりやすく言うと、火災被害を防ぐのが『消防』であり、洪水や高潮被害を防ぐのが『水防』です。

河川の堤防に『土のう』を積んで水があふれるのを防いだり、堤防に『シート』を張って堤防が壊れるのを防いだりする活動などを、『水防活動』と呼んでいます。

水防活動は、誰が行う？

水防活動は、県や市町村、市町村が管理する水防団が連携して行います。水防活動の実作業は、水防団が大きな役割を果たしていますが、本県では、すべての市町村で、消防署と消防団が水防団を兼ねており、陸前高田市と住田町でも、消防署と消防団が主な水防活動を行っています。

消防団は、地域の皆さんが参加して活動していますので、水防活動も、地域の皆さんの力で行っていると言えます。

市町別の消防団（水防団）員数（H19年度岩手県水防計画書より）

市町名	消防団数	分団数	団員数
陸前高田市	1	8	791人
住田町	1	6	410人
（合計）	2	14	1,201人

気仙川流域の重要水防箇所

水防活動は、県や市町村が定めた『水防計画』に基づいて行われます。

この『水防計画』では、あらかじめ『重要水防箇所』を決定し、堤防の状態や橋などの工作物の状況から、その重要度をA、B、要注意の3ランクに分類して、巡視や警戒にあたっています。

気仙川流域の重要水防箇所（H19年度岩手県水防計画書より）

ランク別	区別	気仙川	川原川	矢作川	中沢川	坂本川	合計
重要度 A	堤防	4,550m	1,600m	2,630m	950m	300m	10,030m
重要度 B	堤防	6,260m	-	1,480m	300m	500m	8,540m
合計		10,810m	1,600m	4,110m	1,250m	800m	18,570m

工作物での重要水防箇所および要注意箇所はありません。

車の両輪！

重要水防箇所を解消するには、河川改修などを行っていく必要がありますが、気仙川流域の重要水防箇所は、支川を含めて、実に18km以上もあり、河川改修も長い時間が必要となります。

『河川改修と水防活動は、車の両輪』と言われるように、洪水被害を軽減するためには、河川改修を行うことはもちろんですが、水防活動を的確に行うことも非常に重要です。

近年、全国的に水防団員（消防団員）が減少している傾向が続いています。水防活動の重要性について、皆さまのご理解が深まり、的確な水防活動を継続していくことが求められています。